

淀川河川公園における植生誘導に関する実証実験計画の概要(案)

1. 実験の背景及び目的

(1) 背景

- ①淀川河川公園の整備・維持管理の基本方針（淀川河川公園基本計画）
 - ・河川の横断及び縦断方向での自然環境の連続性
 - ・淀川の特徴ある水辺の景観の保全・再生
 - ・水陸移行帯や淀川固有の生物が生息・生育できる場の保全・再生
- ②下流域における公園整備計画の策定
 - ・整備・維持管理の方向性→「チガヤ群落等の低茎草の草原への転換、草地の回復、オギやススキなどの植生の維持」
 - ・短期的実施項目→「草刈りの頻度、時期、草丈等を変えた植生管理の試行、外来種の選択的な伐採」
- ③公園の新規開園や運動施設の多目的広場化による維持管理コストの増加
 - ・出来るだけ手間・コストのかからない維持管理手法の採用の必要性

(2) 実験の目的

- 目的 1 淀川下流域の公園整備計画の実現
- 目的 2 淀川河川公園全体において、自然環境の保全・再生と公園利用を両立できる草地の整備・維持管理手法の確立
- 目的 3 多目的広場、野草広場の維持管理コストの縮減

2. 実施方針

実証実験は以下の方針に基づいて実施する。

- ①自然環境の保全・再生と公園としての利用性・快適性を両立させた、中～低茎種を中心とする新たな草地の整備・維持管理手法の検討
- ②多目的広場と隣接する水辺・自然エリアとのバッファー（緩衝帯）の役割を担う二次草原の誘導手法の検討
- ③アダプティブ・マネジメント（適応的管理、順応的管理）の導入
- ④より多くの公園利用者に、実験の目的や実施状況を理解・認知していただくための配慮
- ⑤植生の維持管理への将来的な市民参加のしくみの検討

3. 誘導目標植生

本実証実験で誘導をめざす目標植生群落を以下のように設定する。

- 目標植生の条件：
- ・ 高水敷に分布していること
 - ・ 淀川に成立する在来植物群落であること
 - ・ 群落高が約 0.5m 以下であること

誘導目標植生： **チガヤ群落**

4. 実施場所

実証実験は以下の場所に実験区を設定して行う。

- 実験予定地の条件：
- ・ 淀川河川公園の芝生広場及びその周辺の公園区域内
 - ・ 淀川河川公園全体に展開可能な、平均的な生育条件
 - ・ 下流域公園整備計画の実現との整合性
 - ・ PR効果が期待できる人目に触れやすい場所

実証実験の予定地： **十三野草地区**

5. 実験の方法

- ・ 現状植生や土壌堅密度等の組み合わせにより、複数の実験区を設定して実験を行う。
- ・ 目標植生の定着状況、生育範囲の拡大状況等を継続的にモニタリングする。
- ・ 継続的なモニタリングの結果を踏まえ、刈取りの頻度、時期、刈り取る草丈を変えてアダプティブマネジメント（適応的管理、順応的管理）を実施する。

6. 植生誘導実験への市民参画の検討

できるかぎり実証実験の初期段階から、市民に参画してもらえるような可能性を探る。

